令和６年度　第１回学校運営協議会（記録）

令和６年度第１回学校運営協議会を、令和６年６月27日（木）１０時００分より、５名の委員の出席のもと開催しました。

令和６年度の学校運営協議会委員は、次の方々です。

・大久保　香　織　様（本校ＰＴＡ会長）＊欠席
・髙　橋　謙一郎　様（金山連合町内会　会長）
・川　口　拓　朗　様（特定営利活動法人障がい者就労支援の会あかり家 利用者）
・菅　原　弘　光　様（北海道立子ども総合医療・療育センター　看護部長）
・山　下　秀　樹　様（北海道文教大学人間科学部こども発達学科　教授）＊欠席
・星　野　健　史　（本校　校長）
・白　木　宜　子　（本校　主幹教諭）

最初に、学校見学を行いました。昨年度は教室の外からの見学でしたが、今年度は委員の方々が実際に教室の中に入り、子どもたちの活動や学習の様子を間近に見たり、実際に声をかけたりしながら、幼稚部から高等部までの全ての学部の授業を参観することができました。子どもたちは、委員の皆様に声をかけられて嬉しそうな表情を見せたり、少し緊張した様子を見せたりするなどしていました。委員の皆様には普段の学習の様子や、教室内の雰囲気が伝わったことと思います。

次に、校長から、「令和６年度学校経営方針」の説明を行いました。①新型コロナウイルス感染症によって、昨年度まで実施が難しくなっていたことについて、感染症対策を講じた上で、今年度は少しずつ再開できるよう調整し、地域の方々との交流も進めていきたいこと、②キーワードは「連続性」、将来に「つながる」とし、子どもたちが学びたいことや、どのように学んでいきたいのかを自分自身で考えて取り組み、身についた力を実際の場面で活用するなど、子どもたちの主体的な学びを重点としたいこと、③本校は、北海道立子ども総合医療・療育センター（以下、「コドモックル」）への入院により、治療やリハビリをしながら学習をしている幼児児童生徒が通う学校であるため、子どもたちに関わるコドモックルの方々との連携を密にし、子どもたちの「学び」だけではなく「心を支える」ようにしながら、子どもたち一人一人に合った個別最適な学びをすすめていきたいこと、などの説明がありました。学校経営方針に対して、委員の皆様の承認を得ることができました。

学校経営方針を聞いて、委員の皆様からは、「子どもたちの心を育てることがとても重要である。」「自分が学生の頃とは違った現在の学習の様子がわかって良かった。一人一人の状況に合った成長をしてほしい。」「入院する子どもたちの状況は、昔とは少し変わっていることもあるが、コドモックルと手稲養護学校のように、医療と学校が渡り廊下でつながり、天候にも左右されずに通学やリハビリに行き来できる環境は、全国的にも珍しい。コドモックルと手稲養護学校のような有益な環境であるからこそ、治療中の子どもたちの校外学習など、通常であれば参加が難しいと思われる子どもが、医療と教育が連携することで、参加が可能となるなどのことが大切。」など、本校の特性を理解した上で、大切にしたいことや感じたことなど、活発な意見交換をすることができました。

続いて、各学部主事がスライドを用いて学部紹介を行いました。普段の学習の様子や、運動会や文化祭、見学旅行や宿泊研修などの旅行行事や社会見学などの校外学習、その他、様々な様子について、写真を用いながら説明しました。

次に、教頭より、「地域と連携した活動」として、コロナ禍を機に地域の方と合同での実施を見合わせていた「秋の自衛消防訓練」を、今年度から再開すること、また学部の中で、地域の皆様の力をお借りしたいという声が挙がっていることなどについて説明し、今年度はまず、学校から地域やコドモックルの方々に声をかけさせていただくことを説明しました。

最後に、校長より、本校の恵まれた環境は、いろいろな方達の思いが重なり合ってできていることであり、この環境が今後も継続できるよう、持続可能な学校づくりを意識していきたいこと、コロナ禍で学んだことをアフターコロナでどのように活かしていくか、また、コロナ禍で消極的になっていた、人とのコミュニケーションについて、子どもたちにどう提供できるのか考えて行くことが重要であること、学校のニーズだけでなく、地域のニーズを把握しながら、学校・地域との連携を大切にしていきたいことを説明しました。

次回は、12 月に開催予定です。

（主幹教諭　白　木　宜　子）